

令和4年度 第2回我孫子市小中一貫教育推進委員会 議事録

開催日時: 令和5年2月13日(月) 15時～16時30分

開催場所: 我孫子市教育委員会 大会議室

出席者: 我孫子市教育委員会教育長 丸 智彦

我孫子市教育委員会教育総務部長 飯田 秀勝

我孫子市小中一貫教育推進委員11名(1名欠席)

我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び事務局4名

1 丸 教育長 挨拶

我孫子市では平成25年度から小中一貫教育の推進に取り組んでまいりました。平成31年度からは全中学校区で小中一貫教育を実施し、今年度からコミュニティ・スクールが始まりました。

各学校の取り組みは実際に学校を訪問したり、小中一貫教育便り「TSUNAGU(繋)」、それからコミュニティ・スクール便り「スクラム」などを見たりと、いろいろな情報を見聞きしてきました。学校はよく取り組んでくれていると大変感謝をしているところです。ただ、やはり中学校区間で多少の温度差も感じています。中学校区間で情報交換を行い、どこの中学校区でも横の連携をしっかりとやって欲しいと思います。

今年度もあとひと月です。この時期は今年度のまとめをして、次年度の計画等の策定する時期です。この小中一貫教育推進委員会におきましても同じような流れになるかと思いますが、色々な意見を言っていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 内海崎 委員長 挨拶

教育長のお話を伺って、そんなに時間がたったのかという印象と同時に、コミュニティ・スクールが始まったことを踏まえすと、最初の布佐中区で始まったところを「ステップ1」、全中学校区に広がって「ステップ2」になり、そしてコミュニティ・スクールとの連携で「ステップ3」に到達したと考えられます。布佐中学校で、児童生徒だったお子さんたちが、もしかしたら高校生や大学生、そんなふうに変ってきているのではないかと考えています。同時に、保護者の変化、世代的な移り変わりというものが多分起きているのではないかと考えております。先ほど教育長がおっしゃっていたように、誰1人取り残すことなくという点から、地域での差異によって、そういったことが起きないように丁寧に小中で進めていくことが最も求められることなのかなと思います。また、この委員会でそういった現場の支援ができればいいなというふうに思っております。ご出席いただいている皆さんの忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

議事(1)今年度の我孫子市小中一貫教育推進状況について

【事務局より】

まず、第1回我孫子市小中一貫教育推進委員会でいただいたご意見「学校ホームページへの中学校区ランドデザイン等の掲載」についてと、「高等学校・大学との連携の充実」について、2

点報告いたします。

・各中学校区の小中一貫教育グランドデザイン及び各学校運営の基本方針につきまして、全ての学校 HP で確認できるように、メニューの位置を揃えて掲載するようにしました。

・地域連携とあわせて、高等学校や大学等との連携の充実につきまして、今年度までに連携協定を結んでいる大学のほか、新たに東京理科大学との連携について、現在話を進めているところです。

続いて、今年度実施している「Abi-English」および「Abi-ICT」の共有授業実践の取組について報告します。

・Abi-English

小学校と中学校の授業実践を共有することで、小学校1年生から中学校までの学習の連続性や授業スタイルについて小学校と中学校の相互理解を進めることができました。一方で、小学校では、各担任が Abi-English に取り組む上で、オールイングリッシュで授業を進めることに難しさを感じている職員もいます。また、中学校では、小学校からの学びを学習に生かすという点で課題があり、今後も言語活動の充実に向けて授業改善に取り組む必要があります。

・Abi-ICT

今年度、共有授業実践を行うことにより、一人一台端末の活用促進につながりました。また、小学校低学年から端末操作に慣れ親しむことについても、意識が高まりました。一方で、情報モラル、プログラミング教育については、一定の定着が見られるものの、操作技能の向上という点からは、ICT 活用の学校間差があるのが現状です。何を目的に、どのように活用することが有効か、引き続き共有していきたいと思えます。

最後に、小中一貫の日の取組についてです。今年度は、全ての中学校で、小学校6年生が直接中学校へ登校し、授業参観や授業体験、部活動見学等を実施しました。また、コロナ禍で取組んできた動画での中学校紹介等を組み込んだ中学校区もあり、短い時間の中でも充実した内容となっていました。学校から報告いただいた成果からは、直接体験できてよかったという小学生の声が多くありました。一方で、課題としては、学校規模によって感染症対策の観点から、小学校同士や、小学生と中学生の直接的な交流を持つことが難しかった点が挙げられました。

【各委員より】

・英語を身近に感じられる授業が行われていて、先生の熱意も感じられました。何より子どもたちが楽しく学習をしていることを実感しました。他の学校との共有を通して、他の学校の授業も良くなっていくということを感じました。

・我孫子中学校では小中一貫の日は2年ぶりの開催となり、1月31日の日に小学生が中学校に集まりました。中学生が学校の生活、部活動などを話して、小学生たちも喜んでいただけということです。

・高野山小学校の著作権の授業の参観をしてきました。白か黒かはっきりさせづらい内容を扱った授業だったので、私自身も勉強になりました。細かくデータが示されていて、とてもわかりやすい授業になっていたと思います。先生同士で授業を見合い、ブラッシュアップしていくことで、それが他の学校や授業でも共通に解釈されたものが使われるというのは、すごく良い取り組みだなと思いました。

・久寺家中学校と高野山小学校の両方に参加させていただきました。大人の視点から見て、社会がどんどん変わってきているので、授業の内容が、大人にとっても非常に面白く、むしろ大人がキャッチアップしていかなければいけないという点を非常に感じました。授業参観の学習で扱ってくださってもよいのではないかともしました。

・久寺家中の授業は、教材がしっかり用意されていて、これを作るのに先生方はすごく手間がかかったと思います。それを統一して開発していくこと、切磋琢磨してやれること、大変貴重な機会になっていると思いました。

・私は湖北台西小学校のAbi-Englishを参観しました。私の上の子どもは現在高校生ですが、小学校の途中から毎年英語をやるようになりました。2人目の子は中学生ですが、比較してみると授業の中での英語がすごく自然になっているのを感じています。授業の中に自然と英語が入っていて、子どもに抵抗が無いように感じました。子どもにとっては1回きりの授業を大切にする、先生方の努力も感じました。少人数規模の学級だったので、それがすごくいいなと思って見ましたが、これをもっと人数の多い学級になったとき、どうなのかなと疑問を持ちました。

・白山中学校区では計画的に、「教育課程」「研究」「生徒指導」「特別支援」と4部会ごとに活動を進めてきました。スローガンとしては「繋ぐ・関わる・支え合う」という形でやっております。また、「不祥事防止研修」「教育ミニ集会」なども一緒にやってきました。教育ミニ集会では「大人が子どもの行動に困ったときは」というテーマで、教育相談センターの所長に講演いただきました。小中一貫の日も、計画を立てて、1月27日に実施しました。今年一番進んだと思うところは、「子どもたちの言葉で学校を語る」とか、「子どもたち同士の繋がりを作る」というような内容のものが生まれたり、特別支援学級ではビデオメッセージを作ってお互いに交流したりできたことだと思います。

・小中一貫の日は、中学生が小学生を案内してくれました。また、英語の授業も参観しました。案内の中学生が大変素晴らしく、6年生は中学校進学への不安が和らいだと思います。学校評価では、保護者の小中一貫に関する認知度が47%と低かったので、改善していきたいと思いません。

・中区で Abi-English や Abi-ICT の授業を計画的に行いました。小学校の授業を見に行ったり、中学校の授業を見に来たりと、教職員の交流が図れました。私自身も Abi-ICT で東小学校に行きました。小学校1年生がパソコンを起動する場面では、学習していない英語でのパスワード入力が大変そうでした。中学生だとパスワードはすぐ入力できますが、小学校での学習があって、中学校でできているんだなという、繋がりを改めて意識することができました。

・小中一貫の日に関しても1月27日に3年ぶりに行いました。本校で、体験授業として国語、数学、理科、英語の4教科を、学区の小学生を4グループに分けて行いました。国語では古典、理科は気体の性質、数学は虫食い算、英語は複数形について体験学習をしました。児童は、最初は今までと違う雰囲気緊張していましたが、授業が進むにつれて、目が輝き、楽しそうに取り組んでいました。その後、部活動の見学をしました。中学生は小学生に見られることで、張り切っているところを見せようとしていました。中学校の様子がわかって、小学生にも良かったし、中学生も小学生に見せることができ本当に良かったと思っています。

・布佐中学校に行きました。布佐中学校は、地域の方の講座があり、中学生がその講座に参加して書道や華道などに取り組んでいました。それを小学校の6年生が見て、「中学校ではこんなことができるんだな」と目を輝かせていました。残念に思ったのは、講座が減り始めているということです。継続していくことの難しさを感じました。

・今年度は Abi-English および Abi-ICT の授業でたくさんの相互参観を行いました。それによって、小学校の教員は中学校の実態を、中学校の教員は小学校の実態を知ることができたのが非常に大きかったと思います。先日、教務主任研修会で、中学校の先生から「小学生でここまでできるんだ」と話をいただくことができました。

・ICT教育については、小学校間で差があると中学校に行ったときに指導が難しくなるかと思っております。そのため、小学校で足並みを揃えてやると中学校では指導が非常にスムーズにいき、それこそがまさに9年間の義務教育になってくるのかなと思いました。中区で足並み揃えて中学校へ送り出すことで、中学校では高い質の教育ができていけるのかなと思います。

・ICTに関しては、家庭環境によって差異が生じることがあってはならないと思います。そういった意味で公教育である小中学校の義務教育期間が果たす役割、学校の中で不足を補填できるよう、これからも進めていってほしいと思います。

(2)我孫子市小中一貫教育基本方針の一部改訂について

本件については、第1回の推進委員会で皆さんからご意見をいただいたところです。その後、さらに事務局にて検討し、今回、以下を改訂したいと思います。

OP6 3我孫子市が目指す小中一貫教育 (1)我孫子市第四次総合計画

・第1回目目の提案のとおり

OP14・15 5我孫子市小中一貫教育のランドデザイン

・コミュニティ・スクールの文言を挿入

OP16 6我孫子市小中一貫教育推進組織

・コミュニティ・スクールの文言を挿入

OP17 8地域・保護者・諸機関との連携(1)コミュニティ・スクールの活用

・「コミュニティ・スクール」に文言変更

なお、このあと2月の定例教育委員会議をもって、正式に改訂とする予定です。

(3)Abi☆小中一貫カリキュラムの評価について

令和4年度までは共有授業実践を通して周知理解を目指してきました。令和5年度からはカリキュラム自体をどう評価していくかということでの提案になります。次の学習指導要領の改訂等を見つめながら、次の Abi☆カリキュラムの見直しに向けての実績を蓄積したいというのが目的です。

一番大きな柱となっている Abi-ふるさとと、Abi-キャリアの2分野ということで指定したいと思います。検証期間としては、令和5年度から令和7年度の3年間ということで経年変化も追いかけていきたいと思っております。実施方法は以下のとおりです。

○各学年・年1回・1授業を Abi☆小中一貫カリキュラム検証授業として実施

○小学校5・6年及び中学校1年は接続期となることから、中学校区で相互参観

○「Abi☆小中一貫カリキュラム 検証シート」を用いて、実施したカリキュラムが目指す子ども像の育成に有効であったかを検証する。

○授業実施の際には、小中一貫教育だより「TSUNAGU(繋)」にて、実践内容を共有

○1月末を目安に、1年間を通して検証した結果について、各学校から市教委へ報告

【質疑応答・意見】

・評価を行うのは学校の先生か、推進委員か、公開授業した場合の保護者なのかを教えてください。(質問)

→ 授業を作る教員、授業を見る教員を対象に考えています。(回答)

・授業の専門家でないと難しそうなシートなので、教員以外では扱いが難しそうに感じます。(意見)

・評価したものは推進委員会で報告して下さるという認識でよろしいでしょうか。(質問)

→評価をまとめ、報告します。(回答)

・教員同士の評価となると、客観性に欠け、質的評価が弱くなるのが考えられます。(意見)

・表が難しいので、パッと見てわかるシートのほうが良いのではないのでしょうか。(意見)

→学習指導要領の観点の文言を使って作成しました。(回答)

・文言が難しいので、キーワードなどを入れてみてはいかがでしょうか。(意見)
→もう一度検討したいと思います。(回答)

・評価のアプリを作ってポートフォリオで9年間の記録を作ることもできます。いろいろと工夫ができるのではないかと思います。(意見)

(4) 今後の我孫子市小中一貫教育推進の見通し

令和5年度の予定について、概要は、今年度と大きな変更はありません。全体計画、及び小中一貫カリキュラムについては、先ほどお伝えした Abi☆小中一貫カリキュラムの検証についてを加えています。交流活動についても、内容は今年度と同様となっています。

続いて、コミュニティ・スクールの一体的推進についてです。会議冒頭でもお伝えしました通り、第1回の推進委員会のご意見を受け、新たに加えたものになります。これまでの市内小中学校の取組等をもとに、連携先と連携内容を例として示し、新たな連携の窓口としては、令和5年度は指導課を通して、その先は、学校から個々の窓口へアプローチできるように、引き続き事務局にて体制の整備を進めていきたいと考えています。

最後に、小中一貫教育推進のこの先の展望についてです。国の大きな動きとしては、第4次教育振興基本計画のスタート、市としては、改訂教育大綱のスタートとなります。小中一貫教育においては、カリキュラムの3年検証のスタートです。次期学習指導要領の改訂が、令和7年の見込みとすると、小中一貫教育のカリキュラムの検証終了と重なり、これらを受けて、次の小中一貫教育基本方針の改訂と、Abi☆小中一貫カリキュラムの見直しが必要になってくるものと思われます。国の具体的な動きが見えた段階で、今後の推進計画についても具体的にしていきたいと考えています。

全体をとおしての感想・意見【各委員より】

・小学6年生の娘が「とても大切な手紙を持って帰ってきた」と言っていたものが、小中一貫に関する手紙でした。それだけ、学校の先生方の意識も変わってきたのだと感じています。今後も子どもたちのために何かやっていたらと思います。

・PTA 代表として、次の担当者に、引き継ぎを十分させていただきたいと思います。

・自分が子どもの時と比べ、授業が大きく変わったなと思うようになりました。児童生徒が生き生きと授業に取り組んでいるように見え、素晴らしいと思います。今後とも、ブラッシュアップしていった欲しいと思います。

・広報紙などで小中一貫については見ていましたが、本会に参加させていただいたことで、先生方の考えや努力を感じることができました。これからも学校運営協議会の一員として、見守り続けさせていただきます。

・保護者として、この小中一貫教育というのはこういうふうを考えられているんだとわかったことが、大きな収穫です。Abi-English を参観し、授業のつながりも見えました。私も来年、またコミュニティ・スクールの一員として、小中一貫教育を含め、地域と連携して何かできるようなことがないか考えていきたいと思います。

・私も市内に住んでいて、我孫子が好きで、本当によい町になって欲しいと常々思っています。事務局の方が、資料をご苦労されて作っていただいて本当に感謝します。これをやっていくのは学校ですので、受身ではなくて、自分たちで作っていくという意識をしっかりと持てるように共有していきたいと思っています。

・私は市外に住んでいるので、我孫子の取り組みが進んでいて羨ましく思います。目指す子ども像に書いてある通り、未来を拓くこれから大変な時代を生きていく子どもたちが、また我孫子に戻ってきて我孫子を盛り上げてくれるための小中の大事な時期の連携だと思っています。中学校を卒業し、高校、大学などいろいろ経験したのちに、回り回ってまた我孫子のために戻ってきて活躍してくれる人材になってくれることが一番大事ではないかと思っています。また、自分も肝に銘じてこの仕事に携わっていききたいなというふうに思います。

・日々の仕事、目の前にある仕事をこなすだけで精いっぱい、なかなか次のことを考えることができないのですが、事務局から今の時代に合った新しい教育ということで、次の手続きとしてどんどん新しいことを出していただいて、すごいと改めて事務局の力を感しました。時代の変化に合わせて学校も常に変えていかなければいけないと思います。本当に勉強になることばかりでした。

・私自身、布佐中学校の卒業生でありまして当時とはまるで違った授業を実感することができました。私もこの場で小中一貫教育について非常に多くのことを学ばせていただきました。約10年、小中一貫教育をやっているんだということに気づかされました。これは、世の中が必要として生まれてきたものなので、そういうことを忘れずに、毎年学校現場だけではなく見直しできるように努力していきたいと思います。

・この3月で川村学園女子大学を退職いたします。次の大学に移ります。

我孫子との縁は、1999年に4年制大学の方に赴任しまして、その翌年から我孫子市教育委員会の人権指導の研修の講師として我孫子市教育委員会と関わってまいりました。特に私が感謝申し上げるのは、現在いろいろなところで差別体験授業が取り上げられており、その差別体験授業を初めて実践したのが我孫子第三小学校でした。そこでパイロット調査をやりまして一つのメソッドに仕上げ昨年、いろいろなところで取り上げられました。我孫子市教育委員会の先生方と指導課の先生方のご協力がなければ、私の差別体験授業は多分完成していなかっただろうと思っています。

また、教育実習につきましても、小中学校現場の先生方に本当に本学の教職履修者の学生たちは大変お世話になりました。おかげさまで卒業生が何人も我孫子の市内の小学校中学校で教

員として勤務させていただいております。現場で我孫子の先生方に育てていただき、本学の卒業生は基本的には教員として採用されてから途中で辞めた学生はおりません。現場で鍛えていただいた結果だろうと私は個人的には思っております。

差別体験授業はネットで引いていただくと、ぱっと出てまいりますので、ご覧いただければと思います。また、講談社より絵本として出版されることが決まりましたが、本は出版まで2年間かかるそうです。2年後に深山先生のいらっしゃる保育園でその絵本が読まれることを期待しております。私は我孫子市教育委員会に助けられた大学での教員生活だったと思っております。本当にありがとうございました。

4. その他・連絡

今年度の小中一貫教育推進委員会におきまして、皆様の委員任期は、令和5年3月までとなっております。1年間ご協力ありがとうございました。次年度につきましては、また年度が明けてからお願いすることもあるかと思っております。その折には、どうぞよろしくお願いいたします。なお、令和5年度第1回小中一貫教育推進委員会は7月10日を予定しております。